

「大切な島」

伊子茂中学校 3年 新〇〇〇ら

私はこの島で育ったことを誇りに思います。

移住して約6年が経とうとしている今、島での生活にもだいぶ慣れました。初めて島で生活したのは小学3年生の時に1ヶ月限定で体験移住した時です。島に着いてからの生活は私にとって体験したことのない未知の世界でした。見たこともない生き物たちとの出会いや、どこまでも透き通る海、温かい集落の方との時間が楽しくて、一日一日があっという間に過ぎていきました。

私が島で生活し始めて最初に出た感想は、「漫画みたい。」でした。学校から帰ってくるとランドセルを投げて体操服で遊びに行き、悪いことをすれば近所の人に怒られて、漫画の中だけだと思っていた世界がここにはありました。都会では子供だけでは遊びに行くことも、近所の人たちとの交流も無かったため島での漫画のような生活は私にとってとても新鮮で、どんどん惹かれていきました。

体験移住の期間が終わろうとしていた時には、私は島に残りたいという気持ちが強くなっていました。私は普段、私たちのために仕事を頑張ってくれている母にわがままを言って困らせてはいけないと思い、自分の気持ちを言えないことがありました。ですがこの時は、泣きながら「帰りたくない。」と言ったのを今でも思い出します。その言葉が母に響いたのかは分かりませんが、私たち家族は一度、東京に帰り、その年の終わりから再び島で生活することになりました。

しかし、実際に住んでみると体験移住の時には気づかなかった島の大変さが分かりました。私たちが住んでいた東京では、少し歩けば行ける距離に何でも揃っていました。しかし、島では鉛筆1本買うのにも船で渡る必要があります。それにこの島では、人との関わりが深くなるからこそ、親しくしてくれた方が亡くなってしまった時や、せっかく友達になった子が引っ越してしまった時はとても寂しかったです。

もちろん楽しいこともたくさんありました。夏には日が暮れるまで海で遊び、バーベキューをしました。夜には満点の星空が広がり、私は人生で初めて天の川を見ました。島に住んでいなければこんなに心が揺れることは無かったと思います。

最近この島の素晴らしさを改めて実感することがありました。それは今年、ある映画が公開されたことです。その映画は加計呂麻島に移住していたイラストレーターのちやずさんを密着取材した映画で、私が住んでいる集落が舞台となりました。映画では島の美しさはもちろん、集落の人々の温かさも色鮮やかに描かれていました。島の景色を改めて映像で見るととても恵まれた環境で過ごしていたことを思い出します。そして、母がなぜ私たちのことを考え島に連れてきたのかも、理由が分かった気がします。

私は今年中学3年生になり、進路についてたくさんのことを考え、島を離れる選択をしました。この島を離れるのはとても寂しく、時には自分の選択肢が正しいのか不安になることもあります。しかし、私がこの島にいる限りは私から島の良さを発信することはできないと気が付きました。

この奄美大島は今年、「世界自然遺産」に登録され、これは島をもっと多くの人に知ってもらえるチャンスです。だから私は、高校では世界に誇れる島の良さを、これから出会う人々に伝えていきます。その時が来るまでは、この島で暮らせたことに感謝し、残りの生活を思いっきり楽しんでいこうと思います。

鉛筆1本を船で渡って買いに行った島での日々を大切に過ごしていきます。

